

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成31年1月22日

協議会名: 北見市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
北海道北見バス株式会社	夕陽ヶ丘線 小泉8号—西8号線—小泉8号	端野しらかば大学にて高齢者の生涯学習の一環として公共交通に関する授業を行い、公共交通の利用を促したほか、端野町の夏祭り「たんの太陽まつり」(来場者数約1万人)において、子どもと親子を対象にバスの乗り方教室をはじめとした路線バスのPRや、市内の小学校と連携した乗り方教室と路線バス体験乗車を実施することにより、子どもの頃から公共交通に慣れ親しめるような場を提供することができた。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施されている。	A 利用目標381人/日に対し、実績は417人/日と目標に達している。 H30.9に発生した胆振東部地震での停電や悪天候等の影響もあったが、高齢者を含めた幅広い年齢層の利用者が増加しており、日常生活での利用が拡大していると考えられる。	沿線住民への啓発活動等による利用促進に向けた取り組みだけでなく、全市的なイベント等を活用し市全体の利用促進を実施し、潜在需要の掘り起こしを行い効果向上に努める。
	川東・若松地区 北見—川東・若松—北見	また、北見市の身近な交通の情報を掲載したニュースレターを発行し全戸配布することにより、市全体での公共交通の利用を促した。	A H30.9に発生した胆振東部地震の影響により運行できない期間があったが、事業はおおむね適切に実施されている。	B 利用目標39人/日に対し、実績は36人/日と目標に達することができなかった。要因としては、H30.9に発生した胆振東部地震での停電や悪天候等の影響により、高齢者を含めた利用者全体が外出を控える傾向にあったと考えられる。	今後も利用実態を把握し、川東・若松地域での乗り方教室を行う等、地域の実態に合わせたきめ細かなサービス向上に努める。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成31年1月22日

協議会名:	北見市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>北見市は北海道の東部に位置し、人口は117,806人(平成30年12月末現在)でオホーツク圏最大の都市であり、面積は1,427.41km²、北海道では第1位、全国では第4位の広さである。地域の公共交通は鉄道(JR)、路線バス、タクシーであるが、特に市民の移動手段となる路線バスは、近年、自家用車の普及、少子高齢化、人口減少等の社会情勢の変化に伴い利用者は年々減少傾向にある。</p> <p>しかしながら、障がい者や高齢者等いわゆる交通弱者や自家用車等の移動手段を持たない住民にとって、公共交通は、日常生活を送る上で重要な役割を担っており、障がい者の社会参加や今後の高齢化社会の到来等への対応を考えると、その必要性はより一層高まってくることが予測される。</p> <p>このことから、持続可能な公共交通の体制を構築することを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めている。</p>